

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人MiKOねっと

事業名	「たのしく あーそーぼー！！」事業																		
助成枠の種類	特定分野事業ネーミング枠（Sankei キッズ募金子育て振興事業）																		
1. 事業の目的	コロナ禍にあって、乳幼児を子育て中の保護者の中には、家庭で孤独な子育てをしている人が増加し、人と人とのコミュニケーションの場が少なくなっているため、子育ての楽しさを共有できるように、交流の場をつくりたい。																		
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	① コロナ禍で家庭にこもりがちな未就園児の親子の集う場を「新しい生活様式」を考慮しながら作っていくこと。 ② 子どもの目線に立った、子育て中の親子の集う場の確立。																		
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>(1) 親子あそび&ママのしゃべり場（14回） 手あそび・親子ふれあひあそび、自由あそび、しゃべり場</p> <p>(2) 親子表現あそびコミュニケーションワークショップ（1回）</p> <p>(3) はじめてのお芝居「ふうふう あーん」鑑賞（1回）</p> <p>※合計参加人数延べ 保護者 167 人、子ども 196 人、スタッフ 102 人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（1回）</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（3回）</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（3回）</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（2回）</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>親子表現あそびコミュニケーションワークショップ（1回）</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（4回）</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>親子あそび&ママのしゃべり場（1回）</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>はじめてのお芝居「ふうふう あーん」鑑賞（1回）</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報実績について チラシ 2,500部印刷（外部委託） ・三郷市の子育て支援課を通して、三郷市の子育て関連公共施設に置いてもらいました。 ・MiKOねっとの参加団体、会員を通して配布してもらいま</p>	時期	内容	9月	親子あそび&ママのしゃべり場（1回）	10月	親子あそび&ママのしゃべり場（3回）	11月	親子あそび&ママのしゃべり場（3回）	12月	親子あそび&ママのしゃべり場（2回）	12月	親子表現あそびコミュニケーションワークショップ（1回）	1月	親子あそび&ママのしゃべり場（4回）	2月	親子あそび&ママのしゃべり場（1回）	2月	はじめてのお芝居「ふうふう あーん」鑑賞（1回）
時期	内容																		
9月	親子あそび&ママのしゃべり場（1回）																		
10月	親子あそび&ママのしゃべり場（3回）																		
11月	親子あそび&ママのしゃべり場（3回）																		
12月	親子あそび&ママのしゃべり場（2回）																		
12月	親子表現あそびコミュニケーションワークショップ（1回）																		
1月	親子あそび&ママのしゃべり場（4回）																		
2月	親子あそび&ママのしゃべり場（1回）																		
2月	はじめてのお芝居「ふうふう あーん」鑑賞（1回）																		

	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSのLINEで発信。
4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 23組の参加申し込みがありましたが、オミクロン株の流行で、なかなか全員が一堂に揃う状況にはありませんでした。しかし、参加した方々は交流し、情報交換しあい、友だちの輪が広がりました。 ・ 「親子あそび&ママのしゃべり場」は、手あそび・親子ふれあいあそび、自由あそびの中でスカーフやダンボールやマット、トンネルなどを使い、自由に遊び徐々に子どもたちも楽しさが分かり、たくさんの笑顔がみられるようになりました。 ・ 全16回実施する中で、ママのしゃべり場は、徐々に少なくなりました。それは、ママたちが、子どもと一緒にあそぶことにより、子どもの緊張感がなくなり打ち解けて、子どもの笑顔が増えてくるのを見て、「ママ同士のしゃべり場も大切だが、子どもと一緒にたくさん遊んで、子どもの笑顔を見る方が、自分たちも楽しくなり、心が解放される」ことが分かったからようです。子どもの目線であそびを考え設定し、見守ることの大切さがスタッフにもわかったとてもよい機会でした。 ・ 「親子表現あそびコミュニケーションワークショップ」、はじめてのお芝居「ふうふう あーん」鑑賞を通して、親と子、親同士、子ども同士のコミュニケーションを言葉だけではない、いろんな形の表現で通じ合うことが体験できました。特に最終回の「はじめてのお芝居鑑賞」は、小さな子たちが、真剣なまなざしでじっと見入っている様子を見て、驚いている保護者もいました。子どもの豊かな感性を乳幼児期から育み、引き出す端緒になったように思いました。回を重ね緊張感がなくなり、ゆったりとした空気感が流れました。
5. 費用面での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初計画していた会場より、コストが安く、より条件のよい会場がないか探しました。その結果、明るくて広く、より使いやすい会場を見つけることができ、会場費の削減、助成金の有効活用につながりました。 ・ 今回スタッフ人件費が経費の約40%を占めていますが、若いスタッフを育成するためにも必要でした。大いに役立ちました。
6. 地域社会への還元について	<p>「子育ては一人をするのではなく、たくさんの人の目と手で、地域の子どもを見守る」を基本に子育て広場を運営しています。地域のたくさんの違った価値観を持つ大人の中で育つことは大切で、ひいては「育児放棄や虐待」防止にも寄与し、子育てしやすい</p>

	<p>まちを作っていくことにつながると思います。</p>
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>来年度も継続していきます。課題であった運営費の確保ができました。</p> <p>事業終了後の「アンケート」には、「参加して本当によかった。また来年度も参加したいです」とのたくさんの声をいただきました。</p> <p>コロナ禍での新しい生活様式の「親子あそび&ママのしゃべり場」を追求していきたいです。</p>